森のクイズラリー　レベル☆☆☆　解説　2026 年度秋

A　ここ清里の標高はどのくらいでしょうか。

① ６３４m　②１４００m　③２８９９m　④３７７６m

【こたえ】②１４００m

他の選択肢は、①スカイツリー、③赤岳、④富士山の高さを示しています。

日本で一番高い山と言えば富士山ですが、２０万年前は八ケ岳が富士山よりも高かったとされています。日本昔話「富士山と八ケ岳の背比べ」では、背比べをして負けた富士山が怒って八ケ岳の頭を叩き割ったことで、八ケ岳は頂上が崩れて今の形になったそう。実際には、火山活動などによって、八ケ岳はたくさんの山々が連なる姿になり、一方で富士山はより高くなったとされています。昔話のように、山の成り立ちを物語として想像してみるのも楽しいですよ。

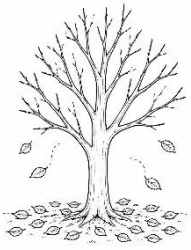
B　なぜ、落葉広葉樹は冬になると葉を落とすのでしょうか？

① 冬は日光が弱くなり、「光合成」ができなくなるから。
② 広葉樹の葉は針葉樹の葉より大きく、
「蒸散」によって葉の水分がなくなることで、枯れて落ちるから。
③ 葉の根元に「離層」が形成され、葉が切り離されるから。

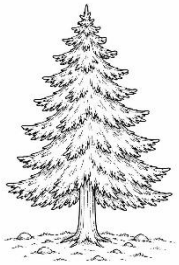
【こたえ】③葉の根元に「離層」が形成され、葉が切り離されるから。

葉には、根から吸い上げた水分を外へ出す「蒸散」や、太陽の光と水、二酸化炭素を使って養分をつくる「光合成」の働きがあります。

冬は、気温が低く、根から水を吸い上げにくくなる＋葉からは水分が蒸発していくため、水不足になりやすくなります。また、日照時間が短く光合成も弱くなります（①「できなくなる」わけではないよ！）。そのため、葉による水分の蒸発やエネルギーの消費を抑えるために、落葉広葉樹は③葉の根元に「離層」を形成することで、葉を切り離しているのです（②「葉の水分が無くなって枯れる」わけではないよ！）。



一方で、針葉樹の葉は、細い葉や水分を逃がしにくい膜、くぼんだ気孔などによって水分の損失を抑えられる構造になっているため、冬でも光合成を行い養分をつくっています。葉を落とす木と残す木、それぞれ冬を越すための戦略がおもしろいですね。



C　ドングリを１個拾ってみて！それはどんな特徴があった？

①葉っぱがついている　②穴が開いている　③ニョロっと何かが出ている
④特になし（きれいなドングリ）　⑤その他（みつけた特徴を書いてね）

【こたえ】全部正解！

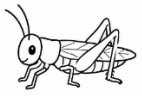
ドングリに①葉っぱがついていたら、ゾウムシの仲間「ハイイロチョッキリ」の仕業かも！ハイイロチョッキリは、ドングリに卵を産むと、葉っぱのついた枝ごと切り落とします。卵からかえった幼虫にとって、ドングリはまるで「お菓子の家」！ドングリの中身を食べて大きくなると、②穴を開けて外の世界へ出ていきます。③ニョロっと出ているものは、根っこ！まずは土の中に根を伸ばし、そのあと芽を出して大きくなっていきます。④このドングリはどんな見た目をしていたでしょうか？ドングリをつけるブナ科の木々は、種類によってドングリに違いがあるため、ドングリから木の名前を特定することができます。これは、ミズナラのドングリです。

D　秋に聞こえる虫たちの“こえ”。なぜ彼らは音を出しているのでしょうか。

①天敵を威嚇するため。　②エサの場所を仲間に教えるため。
③メスがオスを呼ぶため。④オスがメスを呼ぶため。

【こたえ】④オスがメスを呼ぶため

秋に鳴く虫として、コオロギ、キリギリス、バッタの仲間があげられます。左右の翅または後ろ脚と前翅をこすり合わせて音を出しています。一部の例外を除き、たいていオスが鳴いています。コオロギやキリギリスなどは鳴き声を使って仲間同士でコミュニケーションしていることが知られていて、「なわばりの主張」「メスへのアピール」「オス同士の争い」などのために鳴き、目的によって違うパターンの鳴き声を発しています。



E　サルナシの実を食べ“ない”生きものはどれでしょうか。

①ニホンザル　②エナガ　④アオダイショウ　⑤ニホンヤマネ

【こたえ】④アオダイショウ

アオダイショウはネズミや鳥の卵をたべる肉食動物なので、果物は食べません。その他、果物を食べる動物は、サルナシの実を食べます。見た目も味も、小さいキウイフルーツのようで美味しいですよ。ニホンヤマネは、秋に果物などをたくさん食べて脂肪をつけてから冬眠します。

サルナシのような秋の果物は、森の生きものたちの大事なごはんになっているのですね。